家庭数配付

№568　10月号　令和8年　9月30日

西東京市立東伏見小学校
校　長　　中嶋　太
西東京市東伏見6－1－28
TEL　042－463－4517

かけはし

学校ホームページ　更新中
学校ホームページ　更新中
学校HP

続けるということ

副校長　齋藤　信之

作家の東野圭吾さんが今年の７月２３日に逝去されました。私は、ほとんどの作品を読み、個々に違う作風をとても楽しませてもらっておりました。今後の新作も期待していたのですが、もうそれが叶わないのかと思うと、大変残念でなりません。謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

エッセイの中で東野圭吾さんは、自身の成績は「オール３」であり、読書がとびきり好きな少年でもなかった、と語っています。そんな少年が、最終的には総発行部数１億冊を超える大ベストセラー作家になったわけです。高校２年生のときに１冊の推理小説に出合い、以後、興味をもって様々な小説を読み漁り、特に松本清張さんの作品からは多大なる影響を受けたそうです。推理小説を読み続けるうちに、やがて「自分でも書いてみたい」と思うようになり、作品を書き始めました。そして、書くことを続けました。

しかし、最初から作家として認められたわけではありません。大学卒業後に会社員として働きながら小説を書き、何度も作品を発表し、努力を重ねました。デビュー作が評価され、その後も作品を書き続けましたが、大きな注目を集めるまでにはかなりの時間がかかりました。それでも、好きなことを手放すことなく、読み、考え、書くことを続けたのです。

私たちは、ともすると「努力すれば、すぐに結果が出る」と考えてしまいます。しかし、実際には、努力の成果が表れるまでには時間がかかることがあります。むしろ、結果が見えないときにも、どれだけ続けられるかが大切なのかもしれません。「好きだから読む」「もっと知りたいから調べる」「できるようになりたいから練習する」、こうした小さな積み重ねは、すぐには大きな変化として見えなくても、確実に自分の力になっていきます。

東野圭吾さんが、好きだった推理小説を読み続け、書き続けたように、「好きだ」「やってみたい」と思えるものを大切にし、思うような結果が出ないときにも、すぐにあきらめず、一歩ずつ続けてみる。今日の一歩は小さくても、続けた先には、今はまだ想像できない自分との出会いが待っているのかもしれません。

「まずはやってみる―その姿勢が大事なんだ。」（東野圭吾）

☆１０月　生活目標　「落ち着いて学習しよう」

気温が少し下がり、様々なことに取り組むのに適した季節になりました。本校では、「自分の考えを発言すること」を意識するよう指導しています。ノートに自分の考えを書いていても、「間違えたらどうしよう。」「恥ずかしい。」等と発言を控えることがあるようです。全ての子どもたちがのびのびと発言できる学級づくりや工夫をした授業になるよう各学級で指導してまいります。

生活指導部

